

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本語中級1(総合A)		
配当年次		単位数	2(総合Bと併せて)
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	月曜1限		
備考			
担当教員	伊藤 みちる		
授業の概要、ねらい	日本語中級前期レベルの学生が対象です。今まで学んできた日本語を総合的に使いながら、日本の様々なテーマに関する多様な生教材に触れる講義です。「教科書の日本語」だけでなく、日本語中級前期レベルの「敬語」「文法」「語彙」「言葉の意味」「表記」「漢字」を総合的に、生きた日本語として自然に使えるようにバランス良く定着させることを目的としています。		
到達目標	この授業では、基礎語彙5000語、基礎漢字1000~1200字程度を用い、目的や場に応じた適切な語句・漢字や慣用表現を用いた文章表現や、日常生活で使われる表現に慣れることを目指します。自分の考えや疑問を漢字と仮名で適切な表記ができるよう練習し、的確に自然に発話して自信を持って議論を展開できるようにすることを目標にしています。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス 読む・聞く技術:日本の水の都「東京」		
2回	読む・聞く技術:日本の天災とその対策(1)		
3回	読む・聞く技術:日本の天災とその対策(2)		
4回	読む・聞く技術:日本のお茶(緑茶)の製造		
5回	読む・聞く技術:日本の食 レポート①		
6回	読む・聞く技術:日本の銀行と貨幣の歴史		
7回	読む・聞く技術:日本の伝統工芸品		
8回	読む・聞く技術:日本の入浴、洗たく、掃除、化粧などの清浄生活		
9回	読む・聞く技術:日本の政治		
10回	読む・聞く技術:日本の文学 レポート②		
11回	読む・聞く技術:日本の「学問の神」と合格・成功祈願・験担ぎ		
12回	読む・聞く技術:日本の節句の一つ「七夕」と短冊		
13回	読む・聞く技術:日本の伝統芸能の歴史・衣装・役者・音楽(1)		
14回	読む・聞く技術:日本の伝統芸能の歴史・衣装・役者・音楽(2)		
15回	読む・聞く技術:日本の発酵食品		
コメント	様々な状況により変更する場合があります。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート	○	②グループワーク	○
④フィールドワーク	○	⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	○
③その他			
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習等)	この授業ではさまざまな生教材(新聞、雑誌、ドキュメンタリー映画、その他さまざまな映像)を使います。授業終了後も教材の配信は続きますので、復習のために再度、熟読・視聴してください。		
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、提出物(レポート① 50%、レポート②50%)です。S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	初回授業時にお伝えします。		
質問等への受付	質問等は授業後やオフィスアワー、もしくはメールにて受け付けます。気軽に質問・相談してください。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、月曜日2時限「日本語中級1(総合B)」と連続しています。この授業を履修する学生は、「日本語中級1(総合B)」の履修も必須です。 ・「日本語中級1(総合A)」を欠席した学生は、同日の「日本語中級1(総合B)」の校外学習には参加できません。 ・「日本語中級1(総合A)」と「日本語中級1(総合B)」をあわせて、交通費と入場料など合計約14,000円が必要です。 ・30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。 		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	校外学習
授業科目名	日本語中級1(総合B)		
配当年次		単位数	2(総合Aと併せて)
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	月曜2限		
備考			
担当教員	伊藤 みちる		
授業の概要、ねらい	日本語中級前期レベルの学生を対象とします。待遇表現などに注意しながら、今まで学んできた日本語を総合的に駆使し、様々な場面での確かな日本語表現ができるようになることを目的としています。「日本語中級1(総合A)」で学んだテーマのより深い理解を目指します。		
到達目標	この授業では、日本語教員のみならず一般の日本語話者との交流を通じて、日本語中級前期レベル(基礎語彙5000語、基礎漢字1000~1200字程度)の日本語を駆使しながら、目的や場に応じた適切な語句・漢字や慣用表現を用いた文章表現や、日常生活で使われる表現ができるようになります。上下親疎の人間関係やその場の状況、雰囲気認識して、選択的な表現方法を用いて自然な対話が展開できるようになります。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイドダンス 読む・聞く技術:日本の水の都「東京」		
2回	読む・聞く技術:日本の天災とその対策(1)		
3回	読む・聞く技術:日本の天災とその対策(2)		
4回	読む・聞く技術:日本のお茶(緑茶)の製造		
5回	読む・聞く技術:日本の食 プレゼンテーション①		
6回	読む・聞く技術:日本の銀行と貨幣の歴史		
7回	読む・聞く技術:日本の伝統工芸品		
8回	読む・聞く技術:日本の入浴、洗たく、掃除、化粧などの清浄生活		
9回	読む・聞く技術:日本の政治		
10回	読む・聞く技術:日本の文学 プレゼンテーション②		
11回	読む・聞く技術:日本の「学問の神」と合格・成功祈願・験担ぎ		
12回	読む・聞く技術:日本の節句の一つ「七夕」と短冊		
13回	読む・聞く技術:日本の伝統芸能の歴史・衣装・役者・音楽(1)		
14回	読む・聞く技術:日本の伝統芸能の歴史・衣装・役者・音楽(2)		
15回	読む・聞く技術:日本の発酵食品		
コメント	様々な状況により変更する場合があります。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート		②グループワーク	③プレゼンテーション ○
④フィールドワーク	○	⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	③その他
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習等)	この授業ではさまざまな生教材(新聞、雑誌、ドキュメンタリー映画、その他さまざまな映像)を使います。授業終了後も教材の配信は続きますので、復習のために再度、熟読・視聴してください。		
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、提出物(レポート① 50%、レポート②50%)です。S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	初回授業時にお伝えします。必要に応じて授業時にプリントを配布します。		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、月曜日2時限「日本語中級1(総合A)」と連続しています。この授業を履修する学生は、「日本語中級1(総合A)」の履修も必須です。 ・この授業では「日本語中級1(総合A)」で学んだテーマに関連した校外学習を行います。そのため「日本語中級1(総合A)」を欠席した学生は、同日の「日本語中級1(総合B)」の校外学習には参加できません。 ・「日本語中級1(総合A)」と「日本語中級1(総合B)」をあわせて、交通費と入場料など合計約14,000円が必要です。 ・30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。 		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本語中級1(読解)		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	金曜2限		
備考			
担当教員	福永 裕美		
授業の概要、ねらい	日本語中級前期レベル以上の学生が対象です。今までに身につけた基礎を生かし、新たに学ぶ語彙を加えながら、日本や日本人の考え方、さまざまなテーマに沿って書かれた文章を読み進めます。「読解能力」と共に「語彙」「文型・表現」についても学びます。書かれていることを理解しながらまとめたり(要約)、自身の考えや意見を述べる能力も定着させることを目的としています。		
到達目標	この授業ではN1、N2レベル相当の語彙、文型・表現を含んだ文章を読み、読解能力の向上はもちろんのこと、授業内で内容確認、質問を行いながら、正確にテンポ良く文章を読み進めたり、まとめるための能力を高めることを目標としています。正しい文法知識や語彙を増やし、日本の文化と日本人の考え方や価値観についても理解することができるようになることも目指しています。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス 第1課「清潔好きの日本人」		
2回	第2課「少子高齢化の現状と対策」		
3回	第3課「お互いのコミュニケーションのために」		
4回	第4課「古来の知恵が弊害か」		
5回	第5課「日米の大学生はどこが違う」 ☆小テスト		
6回	第6課「社会保障という備え」		
7回	第7課「少年犯罪における匿名報道の是非」		
8回	第8課「日本的な経営慣行と新時代の到来」		
9回	第9課「働く人のボランティア活動」		
10回	第10課「都市から地方へ、人は移り住む」 ☆小テスト		
11回	第11課「生産に必要な水とエネルギー」		
12回	第12課「江戸しぐさと現代人のモラル」		
13回	第13課「世界共通語になった日本の精神」		
14回	第14課「格差社会と教育」		
15回	第15課「フェアトレードの精神に則り」 ☆期末試験		
コメント	様々な状況により変更する場合があります。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート	○	②グループワーク	○
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	○
③その他			
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習等)	各課に長文の進出単語があります。授業前に言葉の意味、使い方を調べておきましょう。		
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、授業内の課題 40%、小テスト 20%、期末試験 40%ずつです S(100～90点)A(89～80点)B(79～70点)C(69～60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	「学ぼう! にほんご 中上級」日本語教育教材開発委員会 編著 専門教育出版		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本語中級1(聴解)		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	火曜2限		
備考			
担当教員	森田 恵美		
授業の概要、ねらい	日本語中級前期レベルまでの文法・語彙の復習後、さまざまな日本語学習教材や音声・映像教材を通じて自然なスピードと言い回しに慣れ、「聞く」技能を伸ばすことを目指します。		
到達目標	日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解し、要旨を把握できるようにすることを目標とします。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス、レベルチェック		
2回	アカデミック・ジャパニーズ 第4課「体験プレゼント」		
3回	ニュースの日本語「第1章 経済・金融4」「第2章 政治・行政3」「第3章 社会・生活3」		
4回	生教材 ディクテーション		
5回	アカデミック・ジャパニーズ 第6課「犬の肥満」 小テスト①		
6回	ニュースの日本語「第1章 経済・金融5」「第2章 政治・行政6」「第3章 社会・生活7」		
7回	生教材 ディクテーション		
8回	アカデミック・ジャパニーズ 第11課「そばをすする音」 小テスト②		
9回	ニュースの日本語「第1章 経済・金融11」「第2章 政治・行政6」「第3章 社会・生活11」		
10回	生教材 ディクテーション		
11回	アカデミック・ジャパニーズ 「第15課 虚偽の自白」 小テスト③		
12回	ニュースの日本語「第1章 経済・金融9」「第2章 政治・行政9」「第3章 社会・生活16」		
13回	生教材 ディクテーション		
14回	生教材 ディクテーション		
15回	まとめ 期末試験		
コメント	様々な状況により変更する場合があります。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート		②グループワーク	③プレゼンテーション
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用		②クリッカーの使用	③その他
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習等)			
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、宿題40%(提出物を含みます)、小テスト20%、試験40%です。S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 東京外国語大学 留学生日本語教育センター編 著 スリーエーネットワーク ・ニュースの日本語 聴解50《中級後半~上級レベル》 瀬川由美他 スリーエーネットワーク		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。 ・授業時間外でも積極的に日常生活の中で日本語を聞く・話すことを心がけましょう。学内の一般学生との交流を通じ、生きた日本語に触れるよう努めましょう。 ・テキストは購入する必要はありません。プリントで対応します。 		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本語中級1(文章表現)		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	金曜3限		
備考			
担当教員	福永 裕美		
授業の概要、ねらい	日本語中級前期レベルの学生が対象です。論文やレポート、日常の文章などを正確に、より自然な日本語で分かりやすく書くことができるようになることを目的としています。与えられたテーマに沿って文章を書く練習を毎回繰り返して行い、適切な表現方法を身につけることができるよう学びます。		
到達目標	に読み手に伝わるよう、スムーズで自然な文章を書くことを目指します。文章を書く際にチェックするポイント、見直す項目をしっかりと学びます。15回の授業により文章表現の基礎を確認し、授業ごとの課題に取り組み、文章力を高めることを目標にしています。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス 確認:現在の文章能力のチェック		
2回	メールの書き方p117 第1課アカデミック・ライティングの準備		
3回	第2課 日本・日本人 <小論文> step1.2		
4回	第2課 日本・日本人 <小論文> step3 p42課題		
5回	第3課 テクノロジー <小論文> step1.2		
6回	第3課 テクノロジー <小論文> step3 p63課題		
7回	第4課 教育 <小論文> step1.2		
8回	第4課 教育 <小論文> step3 p87 課題		
9回	第5課 ニュース <レポート基礎> step1.2		
10回	第5課 ニュース <レポート基礎> step3 p116課題		
11回	第6課 働き方 <レポート基礎> step1.2		
12回	第6課 働き方 <レポート基礎> step3 p140課題		
13回	第7課 持続可能な世界:SDGsを考える <レポート>		
14回	レポート準備		
15回	期末発表		
コメント	第15回では書き上がったレポートをもとに発表をします。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート		②グループワーク	③プレゼンテーション ○
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	③その他
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習等)	学期内に数回、課題やレポートを出します。期日までに提出をしてください。		
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、授業内課題50% 提出物(レポート①、レポート②)それぞれ25% S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	「日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座」伊集院郁子 高野愛子 アスク出版		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	・30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。 ・レポートや課題については第1回授業ガイダンスで詳しく説明します。		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本語中級1(口頭表現)		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	木曜2限		
備考			
担当教員	森田 恵美		
授業の概要、ねらい	日本語中級前期レベルの学生を対象とします。この授業では、日常生活における様々な場面や状況を想定し、日本語によるコミュニケーションを行います。相手との関係を考えながら、自分の伝えたいことを適切に表現し、相手が言いたいことを理解できるように、クラス内でやりとりをする機会を多くとります。またクラスで、身近なトピックについて自分の経験や意見を発表していきます。		
到達目標	この授業では日本語中級から上級の語彙・文法を理解し、会話や発表をする際に使いこなせるようになることを目標とします。最終的にはスピーチ、またはプレゼンテーションにて、説得力のある発表ができるようになることを目指します。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス レベルチェック 1分間スピーチ導入		
2回	1分間スピーチ、「きっかけを語ろう」①		
3回	1分間スピーチ、「きっかけを語ろう」②		
4回	1分間スピーチ、「言いかえて説明しよう」①		
5回	1分間スピーチ、「言いかえて説明しよう」②		
6回	1分間スピーチ、「ストーリーを語ろう」①		
7回	1分間スピーチ、「ストーリーを語ろう」②		
8回	1分間スピーチ、「将来の夢を語ろう」①		
9回	1分間スピーチ、「将来の夢を語ろう」②		
10回	1分間スピーチ、最終発表に向けて①導入、ディスカッション①		
11回	1分間スピーチ、最終発表に向けて②準備、ディスカッション①		
12回	1分間スピーチ、最終発表に向けて③準備と練習、ディスカッション②		
13回	1分間スピーチ、最終発表に向けて④準備と練習、ディスカッション②		
14回	1分間スピーチ、最終発表に向けて⑤練習、		
15回	最終発表		
コメント	様々な状況により変更する場合があります。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート	○	②グループワーク	○
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	○
③その他			
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習)	配布プリントをつかって予習・復習をしてください。		
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、平常点(参加態度・協力)20%、提出物(1分スピーチフィードバック・発表原稿)10%、1分間スピーチ20%、ミニ発表(4回)15%、最終発表20%、コース開始時からの到達度15%です。S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	特になし。必要に応じて授業時にプリントを配布します。		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本語中級1(能力試験対策)		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	火曜1限		
備考			
担当教員	伊藤 みちる		
授業の概要、ねらい	日本語能力試験のN2の「文法」「文字・語彙」を確認復習し、日本語能力試験N1合格に必要な「文法」「文字・語彙」「読解」「聴解」について学習し、多くの練習問題を行います。各自の弱点に合わせて、より高得点にて合格を目指せるように問題を厳選し、練習を行うことにより、正しい解答を短時間で選ぶことを目指します。		
到達目標	「文法」「文字・語彙」「読解」「聴解」について万遍なく学習し、より高得点での合格ができることを目指します。また日本語能力試験N1レベルの文法・語彙を定着させ、難易度の高い長文を読み、高度なレベルの聴き取り、文法を使っての作文ができることを目標にしています。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス レベル確認 N2復習プリント		
2回	小テスト① 日本語能力試験模試①		
3回	小テスト② 日本語能力試験模試①解説 時間関係・限度・例示 pp.8-25		
4回	小テスト③ 関連・様子・付随行動・逆説 pp.26-41		
5回	小テスト④ 条件・逆接条件・目的・手段・原因・理由 pp.42-57		
6回	小テスト⑤ 日本語能力試験模試②		
7回	小テスト⑥ 日本語能力試験模試②解説 可能・禁止・話題・評価の基準・比較対照・最終状態 pp.58-75		
8回	小テスト⑦ 強調・主張・断定・評価・心情・強制的思い pp.76-93		
9回	小テスト⑧ 動詞から派生した文法形式・助詞・複合助詞 pp.94-109		
10回	小テスト⑨ 日本語能力試験模試③		
11回	小テスト⑩ 日本語能力試験模試③解説 日本語能力試験直前まとめ		
12回	日本語能力試験 ふりかえり		
13回	視点を動かさない手段・指示表現・は/が pp.132-151		
14回	接続表現・言い換え・文体の一貫性・話の流れ pp.152-167		
15回	総まとめ 学期末テスト		
コメント			
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート		②グループワーク	③プレゼンテーション
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	③その他
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習等)	日本語能力試験N1合格、N1合格獲得点数の改善のため、日々の予習・復習は必要です。また毎回行われる復習小テストのため、毎日1時間は復習を行い、学習内容を定着させましょう。		
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、小テスト10回:50%、学期末テスト:50%です。S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	『新完全マスター「文法」日本語能力試験 N1』友松悦子・福島佐知・中村かおり 著 スリーエーネットワーク		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。 ・毎回、授業では小テストを行います。毎回、授業で学んだことをしっかり復習するようにしてください。小テスト、テストについては第1回ガイダンスで説明します。 ・教材については、各自のレベルや弱点を見た上で、追加することがあります。 ・授業内容についても、各自のレベルや強化する点を考え、多少変更することがあります。 		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	東アジアの歴史		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	木曜3限		
備考			
担当教員	趙 方任		
授業の概要、ねらい	<p>日本、中国、韓国は「同文同種」の国といわれ、何千年もの文化交流の歴史をもちながら、いまだ一体感を構築できずにいます。近年来、三カ国関係の冷え込みは改善の兆候も見えてきません。真の国際交流、協力は互いに包容し、理解しなければいけません。したがって現下にあつては何よりもアジア理解が求められます。</p> <p>この授業は、二つの軸で展開し、日中文化に対する理解を深めていきます。</p> <p>一つの軸として、歴史的な変遷及びその文化形成に対する影響、歴史上の交流から日中韓文化を見ます。もう一つの軸として、現在日中両国庶民の生活、習慣から両国の相違を見ます。種々の比較を通して地域的・歴史的・体系的に文化の特質と変容を明らかにします。</p> <p>この授業では日本、中国の歴史と地域文化を学び、異文化比較の目を育成することを目的としています。</p>		
到達目標	日本・中国文化の基礎や日中韓三カ国文化の相違をマスターすることを目指します。		
授業内容とスケジュール			
1回	授業説明と日中韓の関係		
2回	中国の歴史と日中韓の歴史上の接点		
3回	秦帝国の成立から見る日中韓政治、文化、経済の相違		
4回	秦帝国と万里の長城		
5回	漢帝国から見る封建と集権と法制		
6回	漢帝国と高土高原地域の民俗		
7回	三国時代と“天府之国”四川地域		
8回	唐帝国、遣唐使と国際化		
9回	宋帝国と江南地域		
10回	元帝国、元寇とモンゴル遊牧文化		
11回	明帝国、鄭和の大航海と倭寇		
12回	清帝国と東北の民俗		
13回	現代の中国大陸と台湾		
14回	地域文化と地域差		
15回	まとめ・レポート		
コメント	様々な状況により変更する場合があります。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート		②グループワーク	③プレゼンテーション
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用		②クリッカーの使用	③その他
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習)			
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、授業態度10%、授業参加度30%、レポート60%です。S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	指定テキストは特にありません。必要に応じ、プリントを配布します。		
質問等への受付	質問は、授業中はもちろんのこと、授業後に教室にて受け付けます。また、オフィスアワー(木曜日3時限)や事前連絡の上、研究室にて随時受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本の漫画とその文化		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	水曜2限		
備考			
担当教員	森 功次		
授業の概要、ねらい	<p>漫画は、数ある日本文化の中でも、世界中に影響を与えるまでに成長した重要な文化です。この授業では、日本漫画の成立・発展の歴史を学ぶとともに、現代の漫画文化について読者・制作者・出版社など多面的な観点から考察します。また、漫画の中にある様々な技法について解説することで、漫画の読み方を学びます。またこの授業では、漫画から派生した文化として、日本のアニメも扱います。</p> <p>履修者には、自分の国の漫画文化と日本の漫画文化を比較するプレゼンテーションを2回行ってまいります。また、授業ではその話題をもとにディスカッションも行います。授業期間中、履修者には日本の漫画・アニメを積極的に見ることを求めます。</p>		
到達目標	<p>-日本の漫画・アニメについての基礎的な知識を身につけること。</p> <p>-日本の漫画と自国の漫画文化を比較して、その特徴を解説できるようになること。</p> <p>-自分が高く評価する漫画の良さを、客観的に説明できるようになること。</p>		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス、課題の説明、成績評価について		
2回	日本の漫画とその歴史1:漫画が成立するまで、鳥獣戯画から浮世絵まで		
3回	日本の漫画とその歴史2:幕末以降の文化変遷と、明治・大正期の漫画		
4回	日本の漫画とその歴史3:戦時中の少年漫画とプロパガンダ		
5回	日本の漫画とその歴史4:戦後の日本漫画、手塚治虫とトキワ荘		
6回	日本の漫画とその歴史5:戦後の日本漫画、劇画の成立		
7回	日本の漫画とその歴史6:少女漫画の多様化		
8回	日本の漫画とその歴史7:週刊少年ジャンプがつくりあげたもの		
9回	漫画の読み方1:コマ割り、見開き、視線誘導		
10回	漫画の読み方2:ペンの種類と効果線、マンガのジャンル		
11回	現代日本の漫画文化1:電子書籍化と漫画アプリ		
12回	現代日本の漫画文化2:アニメ化と実写化、コミケと聖地巡礼		
13回	現代日本の漫画文化3:マンガとジェンダー、女性キャラの言葉遣い		
14回	現代日本の漫画文化4:マンガ学の展開、マンガ批評とマンガ研究		
15回	現代日本の漫画文化5:日本のクールジャパン政策、世界のマンガとの比較		
コメント	履修者の語学力・知識等に応じて内容は変更する可能性があります。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート	○	②グループワーク	○
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	○
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習)			
成績評価の方法及び基準	<p>授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。</p> <p>評価割合は、授業中の発言・質問50%、プレゼンテーション50%とします。</p> <p>S(100～90点)A(89～80点)B(79～70点)C(69～60点)D(59点以下は不合格)</p>		
教科書・参考書	特になし。授業中にプリントを配布します。		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。		

科目区分	留学生対象(国際センター)	授業形態・方法	講義
授業科目名	日本の家政学		
配当年次		単位数	2
期間	半期	学期	前期
曜日・時限	水曜3限		
備考			
担当教員	森 功次		
授業の概要、ねらい	この授業では、食事、教育、風物詩などの観点から日本の生活スタイルを見ていくとともに、その裏側にある思想や社会事情を学びます。履修者には、自国の生活文化と比較しつつ、2つの国の特徴を考察してもらいます。履修者には、自国と日本の生活文化を比較するプレゼンテーションを2回行ってもらいます。また、授業ではその話題をもとにディスカッションも行います。		
到達目標	日本の生活スタイルについて基礎的な知識を身につけること。日本と自国との生活スタイルを比較し、その特徴、長所、問題点を解説できるようになること。風土や社会状況が生活に与える影響を考察できるようになること。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンス、課題の説明、成績評価について、自己紹介		
2回	日本の風物詩1:春		
3回	日本の風物詩2:夏		
4回	日本の風物詩3:秋		
5回	日本の風物詩4:年末年始		
6回	日本の風物詩5:冬		
7回	日本の食文化:米と麦、麺類		
8回	日本の食文化:郷土料理と流行料理(ファッションフード)		
9回	履修者によるプレゼンテーション1		
10回	現代日本の家計事情と学生の暮らし:経済発展と不況の影響		
11回	日本の子育て1:出産、育児		
12回	日本の子育て2:部活、受験、いじめ、青少年保護		
13回	日本の住宅事情:部屋の飾りと掃除術		
14回	日本の工芸と食器:「民芸」の観点から		
15回	履修者によるプレゼンテーション2		
コメント	日常生活の中から「日本らしいもの」を積極的に探し、それを言葉で説明する練習をして下さい。		
アクティブ・ラーニング(該当項目に○印)			
①ディスカッション・ディベート		②グループワーク	③プレゼンテーション ○
④フィールドワーク		⑤その他	
ICTを活用した双方向授業(該当項目に○印)			
①manabaの使用	○	②クリッカーの使用	③その他
特徴的な授業(該当項目に○印)			
①学外団体(企業、自治体、他大学等)と連携した授業		提携先	
②外国語のみで行われる授業		使用言語	
③担当教員の実務経験(5年以上)を活用した授業			
実務内容			
授業への活用			
授業時間外への学習(予習・復習)	配布プリントをつかって予習・復習をしてください。		
成績評価の方法及び基準	授業出席8割以上を評価対象とします。授業出席8割未満はE(出席不足)です。評価割合は、授業中の発言・質問50%、プレゼンテーション50%とします。S(100~90点)A(89~80点)B(79~70点)C(69~60点)D(59点以下は不合格)		
教科書・参考書	特になし。授業中にプリントを配布します。		
質問等への受付	質問等は授業後もしくはメールにて受け付けます。		
他大学単位交換科目			
本授業とディプロマ・ポリシーとの関連性			
その他(注意事項等)	・毎週、その週にあったニュースの中から家政学に関わる話題をとりあげます。履修者は日本もしくは母国のニュースをチェックしておくこと。 ・30分以上の遅刻と早退は欠席とし、遅刻と早退を計3回すると1回分の欠席になります。		